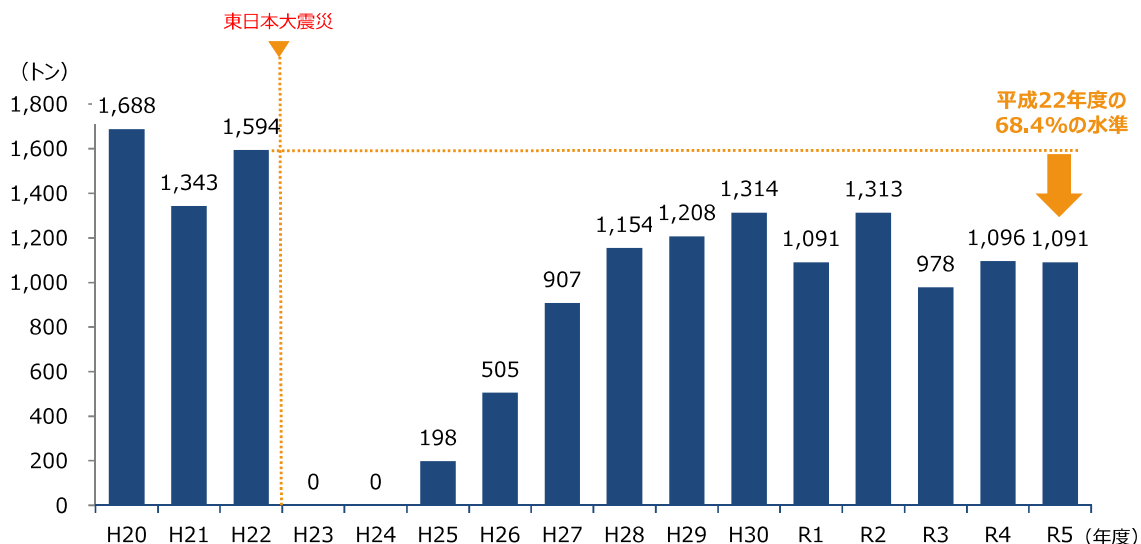


- 福島県産あんぽ柿は、震災直後に出荷を自粛した後、平成25年度に出荷を再開して以降、徐々に出荷量が回復。
- 令和5年度の出荷量は、平成22年度実績の68.4%となっている。

福島県産あんぽ柿の出荷量の推移



データ出所：福島県調べ

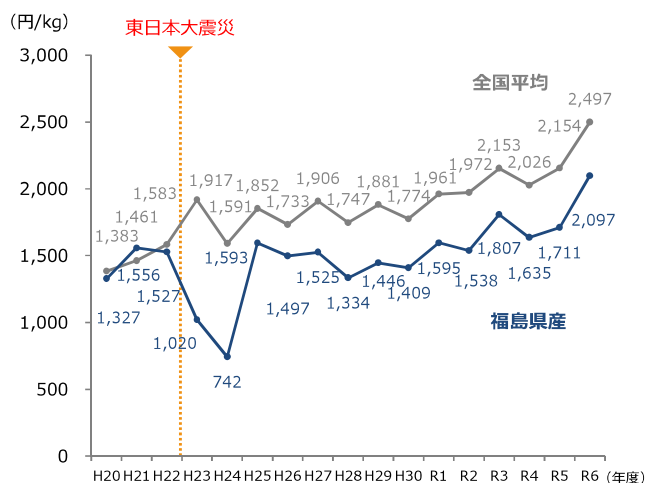
43

福島県産あんぽ柿の価格の概況（概要調査）

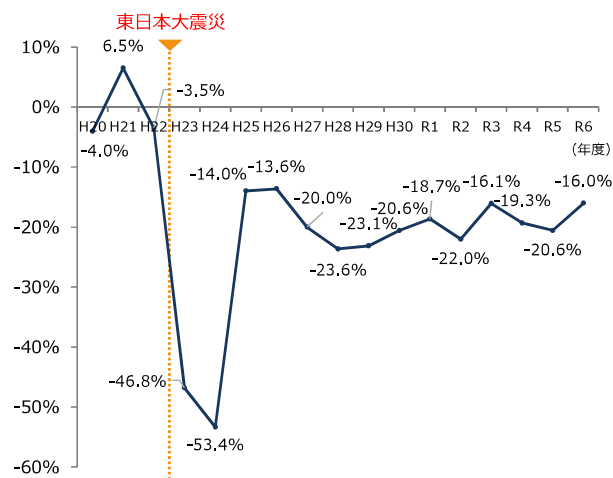
干し柿のデータ

- 東京都中央卸売市場における干し柿の平均単価について、震災前は、全国平均とほぼ同程度であったが、震災後は全国平均を下回る水準にて推移している。
- 令和6年度の福島県産干し柿の平均単価は、全国平均と同様に上昇した。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

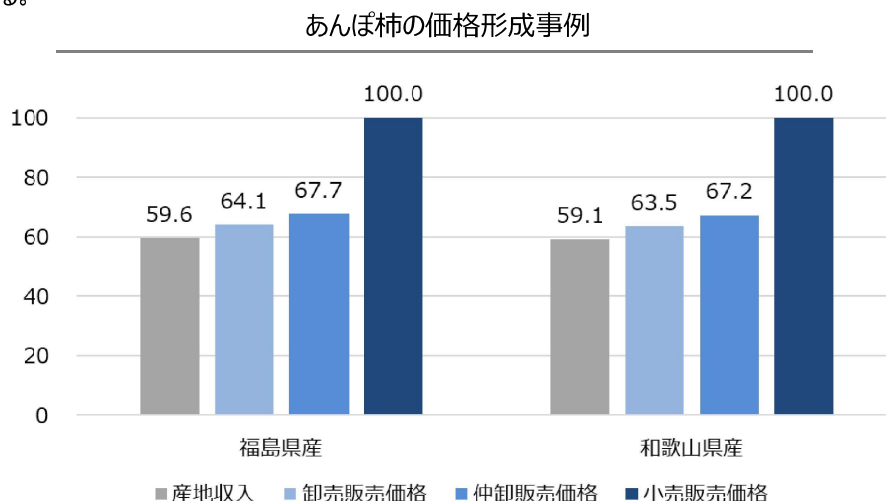
※令和6年度は、令和6年12月までの実績を使用。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

44

● 首都圏の小売業者が扱うあんぽ柿の事例

- 福島県産と和歌山県産の価格形成を比較すると、小売業者が仕入れ値が異なる両産地産に同一の販売価格を設定していたことで差が見られた。一方で、産地収入、卸売販売価格、仲卸販売価格における価格形成は、各段階で同等のマーゲインがのせられており、両者で違いは見られなかった。
- ・ 小売業者によれば、福島県産の方が仕入れ値が高い理由は2つあり、①福島県産は「蜂屋」という差別化が図れる干し柿専用の品種であること、②福島県産は1パック200～230gに対して、和歌山県産は150gであることである。



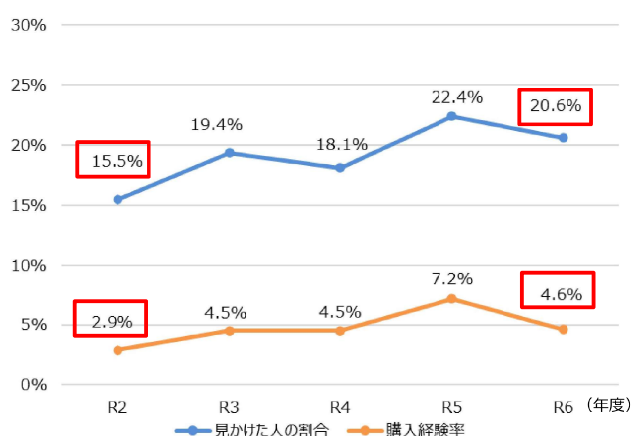
※数値は小売販売価格を100とした指数。
※産地収入とは集出荷業者の販売価格のことを指す。

45

福島県産あんぽ柿を見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

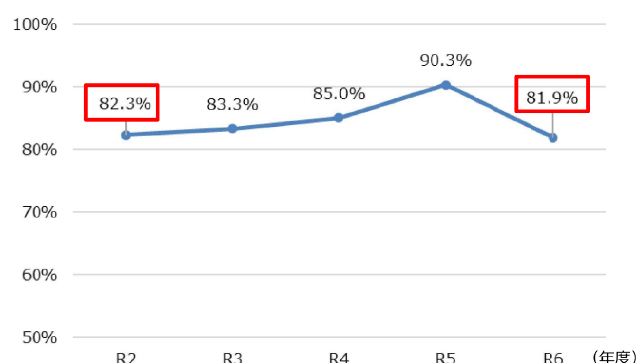
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産あんぽ柿を店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ5.1%ポイント、1.7%ポイント上昇した。
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産あんぽ柿の評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は0.4%ポイント下降した。

福島県産あんぽ柿を見かけた人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産あんぽ柿を見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
※見かけた人の割合のnはR2:6,485、R3:7,177、R4:3,093、R5:2,624、R6:2,376。
nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
※購入経験率=1度でも購入したことがある人数/回答者数
記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購入経験なしとなる。
※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

福島県産あんぽ柿を高く評価している人の割合



※福島県産あんぽ柿を購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
※nはR2:322、R3:493、R4:247、R5:289、R6:182。

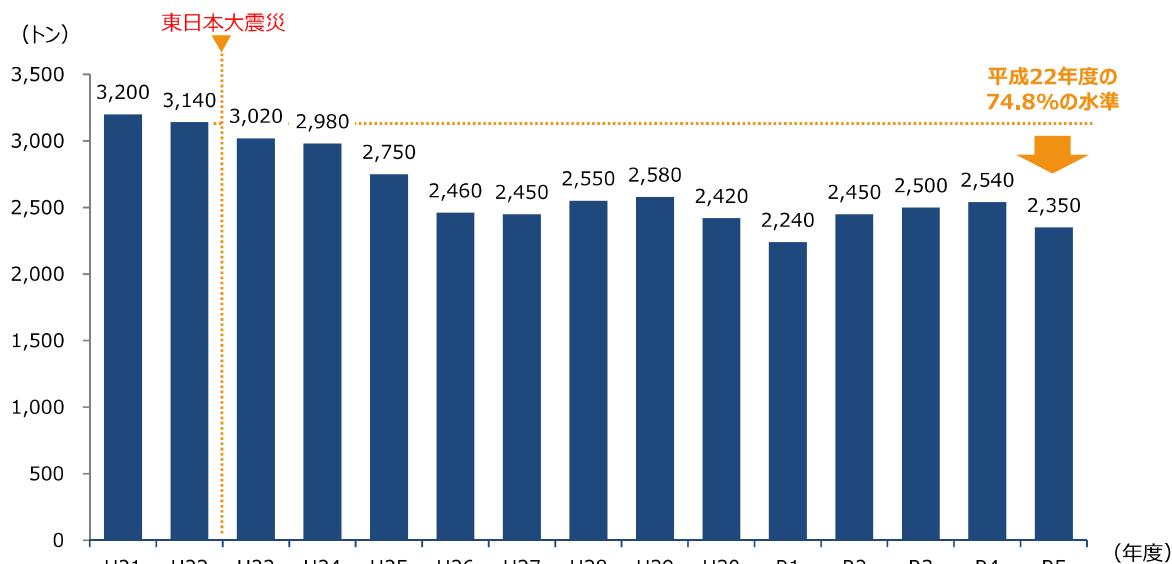
46

福島県産ピーマンの出荷量の推移（概要調査）

米 牛肉 桃 あんぽ柿 **ピーマン** ヒラメ 他の品目

- 震災後、福島県産夏秋ピーマンの出荷量は減少傾向にあったが、平成26年度以降は、概ね横ばいで推移している。
- 令和5年度の出荷量は、平成22年度の74.8%であった。

福島県産夏秋ピーマンの出荷量の推移



※夏秋ピーマン：主たる収穫・出荷期間が6月～10月

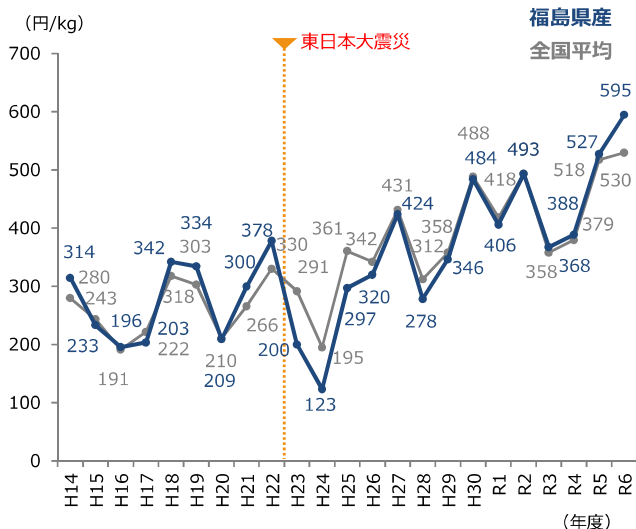
データ出所：農林水産省「野菜生産出荷統計」

47

福島県産ピーマンの価格の概況（概要調査）

- 東京都中央卸売市場における福島県産ピーマンの平均単価は、震災以前は概ね全国平均を上回っていたが、震災直後は全国平均を大きく下回った。平成29年度以降は、徐々に差が縮小し、令和6年度は12.3%と大幅に全国平均を上回った。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



全国平均と福島県産の価格差の推移



※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

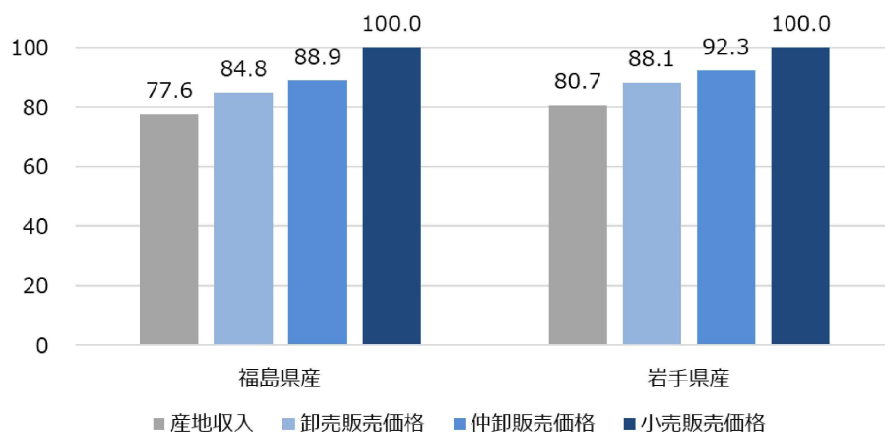
※ピーマンの震災前3年は年度差が大きかったため、他品目で調査している期間よりも更に遡って調査した。

データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」（7～9月の平均価格）

48

- 首都圏の小売業者が扱うピーマンの事例。
 - 本事例の小売業者は特売時を除き、調査時期にピーマンの販売価格を固定していた。
 - 福島県産と岩手県産の価格形成を比較すると、取引価格はすべての段階で近い値であった。
 - 産地によって価格を変えると手間が生じるため、小売業者は産地が異なっても同一の価格を設定。
 - 卸売業者と仲卸業者の販売価格も基本的に産地によって変えていない。

ピーマンの価格形成事例



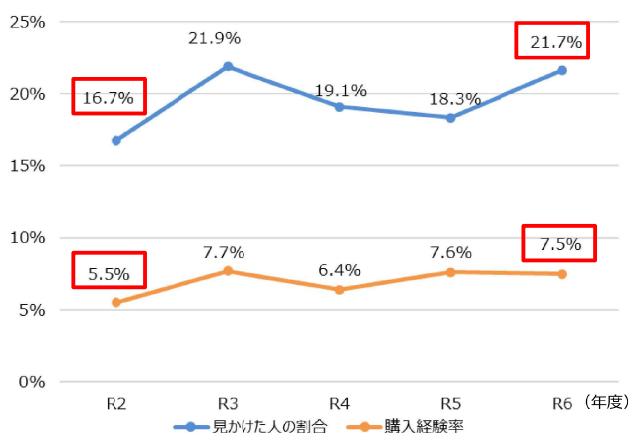
※数値は小売販売価格を100とした指数。
 ※産地収入とは集出荷業者の販売価格のことを指す。
 ※福島県産、岩手県産ともに、8月の1か月間のデータを集計した。

49

福島県産ピーマンを見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

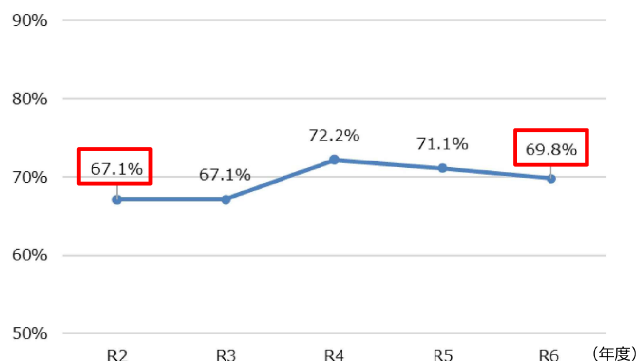
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産ピーマンを店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ5.0%ポイント、2.0%ポイント上昇した。
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産ピーマンの評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は2.7%ポイント上昇した。

福島県産ピーマンを見かけた人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産ピーマンを見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
 ※見かけた人の割合のnはR2:6,994、R3:7,722、R4:3,556、R5:2,804、R6:2586。
 nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
 ※購入経験率＝1度でも購入したことがある人数／回答者数
 記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購入経験なしとなる。
 ※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

福島県産ピーマンを高く評価している人の割合

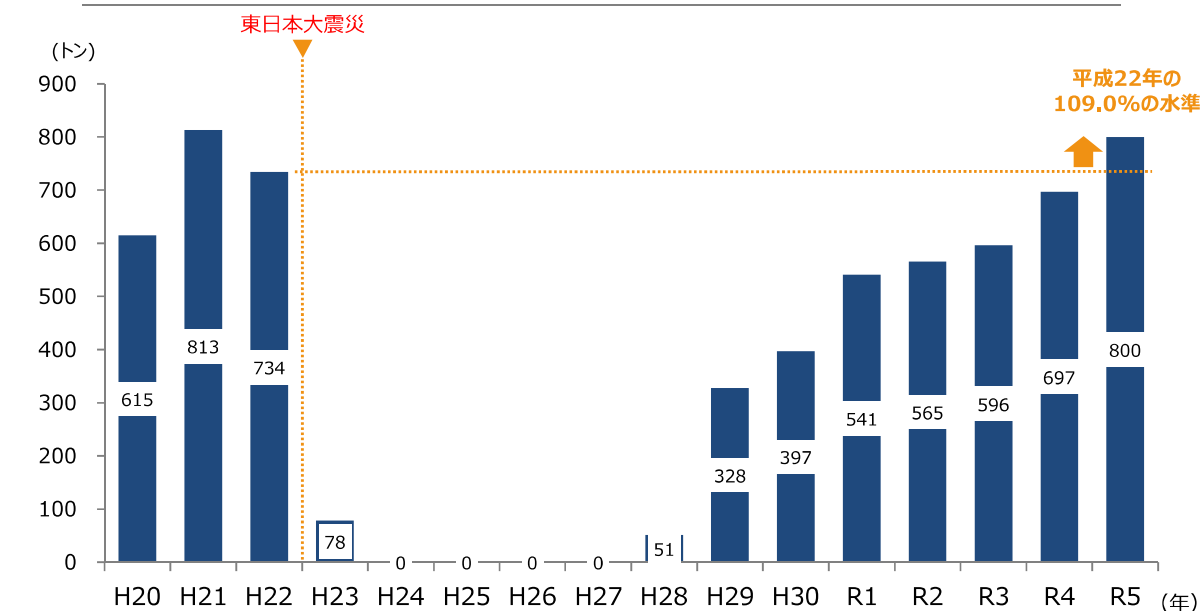


※福島県産ピーマンを購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
 ※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
 ※nはR2:600、R3:851、R4:352、R5:305、R6:301。

50

- 福島県におけるヒラメの漁獲量は、震災後、平成24年6月から出荷制限により、漁獲がない状態で推移したが、平成28年6月の出荷制限解除後から順調に漁獲量を伸ばし、令和5年は平成22年の109.0%となった。

福島県におけるヒラメの漁獲量の推移



データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

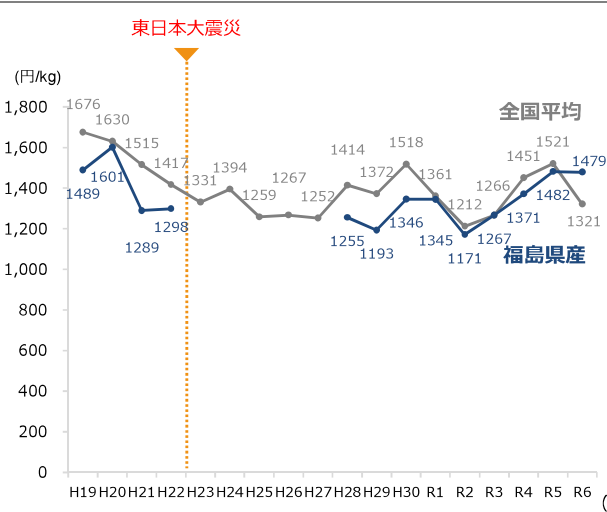
※ ヒラメは、平成28年6月に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。
※ H23は震災前のお荷を含む

51

福島県産ヒラメの価格の概況（概要調査）

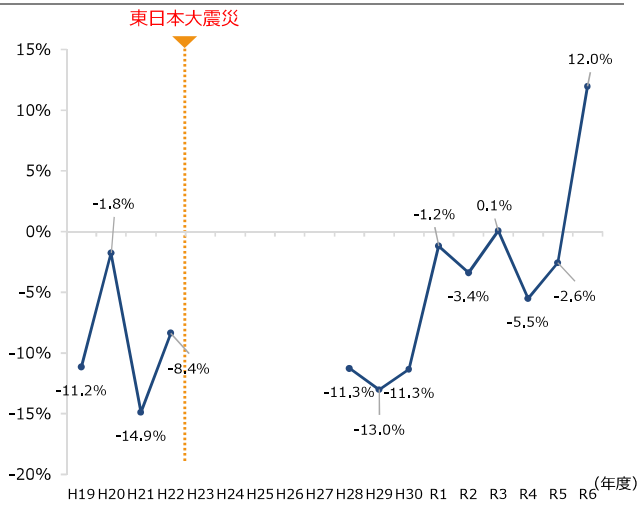
- 東京都中央卸売市場における福島県産ヒラメの平均単価は、平成28年度の出荷再開時には全国平均より1割程度低かった。令和元年度以降は、全国平均と同程度の平均単価となり、令和6年度の価格差は12.0%上回った。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

全国平均と福島県産の価格差の推移



※ 福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる。

※ 東日本大震災前の平成21年度と22年度にも、全国平均と比べて福島県産品の価格は低かった。平成21年度と22年度は、20年度と比べて東京都中央卸売市場における福島県産品の出荷が多く、シェアも高かった。

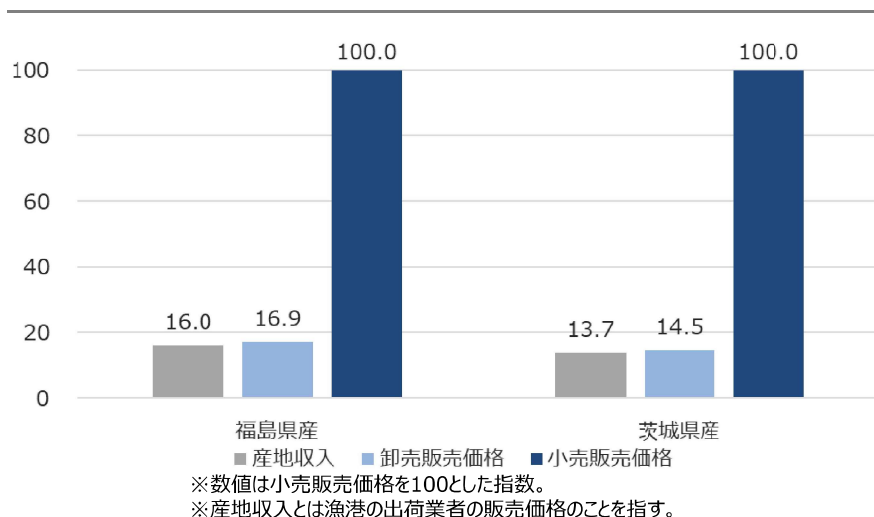
※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

※ 令和6年度は、令和6年12月までの実績を使用。

52

- 首都圏を中心に全国展開している鮮魚チェーン店の事例。
 - 福島県産と茨城県産の価格形成を比較すると、小売販売価格に対する産地収入の比率は、両産地で小売販売価格が異なっていたことで差が見られた。福島県産の方が肉厚でアラが少ない一方で、茨城県産の方が身が少なくアラが多いため、歩留率の観点から福島県産の方が産地収入が高かった。
 - 小売業者が刺身用に加工しているため、小売業者のマージンが大きく設定されていた。ただし、競合県産との間で、小売業者のマージンに目立った差はなかった。
 - ・ 産地収入は、卸売販売価格から委託手数料5.5%を差し引いた金額であった。

ヒラメの価格形成事例

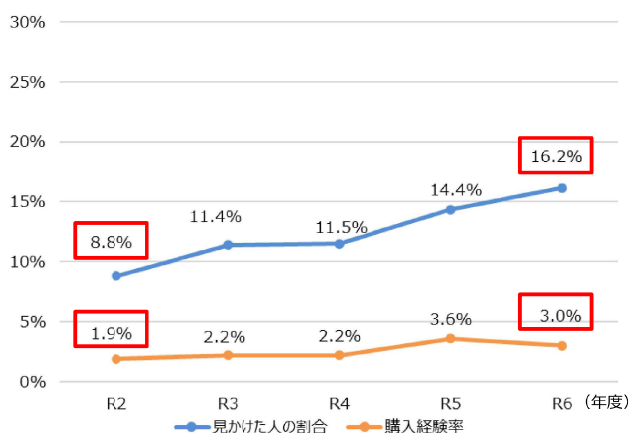


53

福島県産ヒラメを見た経験、購入経験と購入者の評価（消費者アンケート・経年比較）

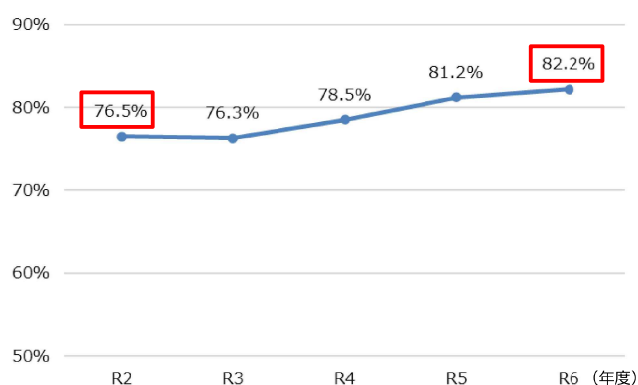
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産ヒラメを店頭で見かけた人の割合、購入経験率はそれぞれ7.4%ポイント、1.1%ポイント上昇した。
- 令和2年度と令和6年度を比較すると、福島県産ヒラメの評価について、「非常に良い」または「良い」と回答した人の割合は5.7%ポイント上昇した。

福島県産ヒラメを見かけた人の割合、購入経験率



※見かけた人の割合は過去1～2年に、店頭で福島県産ヒラメを見た記憶を尋ねたもので、「よく見かけた」、「ときどき見かけた」を選択した者の割合の合計値。
※見かけた人の割合のnはR2:6,282、R3:6,810、R4:3,108、R5:2,611、R6:2,357。
nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。
※購入経験率＝1度でも購入したことがある人数／回答者数
記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていた場合は購入経験なしとなる。
※購入経験率のnはR2:11,000、R3:11,000、R4:5,500、R5:4,000、R6:4,000。

福島県産ヒラメを高く評価している人の割合



※福島県産ヒラメを購入したことがある回答者のみに尋ねた質問。
※グラフ上の数値は「非常に良い」、「良い」を選択した者の割合の合計値。
※nはR2:209、R3:237、R4:121、R5:144、R6:118。

54